

近畿における MSM に対する検査提供と介入の効果評価

研究分担者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）
研究協力者：宮田りりい（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）
宮階真紀（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）
町登志雄（MASH 大阪）

研究要旨

総計 142 キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布が 69 件、WEB での配布が 73 件であった。

アンケートに回答したものは 103 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 87 名であった。96.6%が結果サイトにログインしていた。HIV 陽性件数は 2 件、梅毒の陽性件数は 14 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 87 名のうち、69 名（79.3%）はアンケート結果との連結に同意していた。アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 69 名の属性については、35 歳未満が 53.6%を占めた。大阪府の居住者が 63.8%、兵庫県が 11.6%であった。生涯初の検査経験割合は 21.7%であった。

過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 66.7%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 30.4%を占めた。新型コロナウイルス感染症に伴う自粛宣言に対応しながらのゆうそう検査の進行には困難、課題があったが、今後クリニック検査やセンターで実施している検査提供プログラムと棲み分け法も考えつつ最適な検査提供モデルを検討していく必要がある。

A. 研究目的と背景

先行研究から、HIV 検査の選択肢を増やすことは、検査行動の促進につながるが、保健所の HIV 検査は非常に重要であるが、地方都市や平日に保健所に来所できないクライアントには時間の都合や距離の遠さから不便さも伴う。また令和 2 年 2 月からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、保健所での検査提供は 7 割以上減少となっている。この減少を埋めるためにも新たな検査機会での補完が急務となった。

そこで、大阪地域では自己採血の DBS 検体を送付しスクリーニング検査を受けるゆうそう検査のコミュニティセンターdista での対面配布、WEB 配布を実施した。MSM が利用しやすい HIV・梅毒の検査の選択肢を増やし、期間集中で配布を実施し、検査普及における有効性の評価を行う。

B. 研究方法

コミュニティセンターdista では、MASH 大阪

では主に 3 つの方法で郵送検査キットを配布した。

- ①dista 来場者へ配布
- ②TwitterDM/メールを使った配布
- ③電話での配布。

Twitter やゆうそう検査のオリジナル WEB サイト「いろエロ診断サイト」を見て dista に来場した人だけでなく、一般 dista 来場者へも郵送検査キット配布の情報を伝え、手渡した。ガイドランスには下図のようなガイドランスシートを作成し、使用した。

1	ゆうそう検査キット事前説明 下記の内容がわからないことはありませんか？内容を理解したら、「次に進む」と返信ください。
①ゆうそう検査は、HIV のスクリーニング検査と梅毒の抗体検査の結果がわかります。	
②HIV 検査結果が陽性の時は、確認検査（本当に HIV に感染しているかどうかを調べる検査）を受ける必要があります。	
③ゆうそう検査では、特設サイトに申込 ID とパスワードを入力して、自分一人で結果を知ることができます。そのため申込 ID とパスワードは大切に保存・保管ください。	
④結果が陽性の時は、確認検査を受ける場所を自分で探しますが、dista や、ゆうそう検査サイトでも相談ができます。	
⑤採血は、2 枚のろ紙に 2 cm 位まで血を染み込ませる必要があります。	
⑥感染の機会から 3 ヶ月経過してからの結果がわかります。	

Twitter ではダイレクトメールを活用して以下のようなやりとりをふまえて配布した。

例)

Q：郵送検査キットを受けたいです。

= 1 回目の返信 =

D：このまま DM で説明いたします。事前説明の後、web アンケートへの回答をお願いします。

D：事前説明のための画像をお送りします。内容をよくご確認ください。

D：(事前説明画像送信)

D：内容が確認できましたら、次に WEB アンケートへの回答をお願いします。

D：https://www.gmhp.jp/SH-2020/945495

D：最終画面に数字 8 桁の ID が表示されます。

(ID は申し込み用紙記入時に必要になるため、スクショなど画面を保存することをお勧めいたします。)

Q：アンケートに答えました。

= 2 回目の返信 =

D：下記サイトから、ゆうそう検査キットの受取登録ができます。

D：https://www.std-lab.jp/e/DST01

D：ご案内は以上となります。

D：今は、HIV は適切な治療を行うことで、性行為で感染しない時代となりました。U=U (https://uu-japan.jp/) など、HIV の情報も日々アップデートされています。ご利用ありがとうございました。

なお、本研究は名古屋市立大学看護学部研究倫理審査委員会に設置された倫理審査委員会により承認を得た。

C. 研究結果

1) 検査キットの配布日・配布件数

①対面配布

2020 年 12 月 18 日から 3 月 15 日まで配布し

た。

2) 検体の送付状況とアンケートの結果

総計 142 キットを配布した。コミュニティセンターでの対面配布が 69 件、WEB での配布が 73 件であった。

アンケートに回答したものは 103 名であった。また実際に検体を郵送会社に郵送したものは 87 名であった。96.6%が結果サイトにログインしていた。

HIV 陽性件数は 2 件、梅毒の陽性件数は 14 件（既往歴も含む）であった。検体を郵送した 87 名のうち、69 名（79.3%）はアンケート結果との連結に同意していた。

アンケートに回答し、かつ検体郵送した者 69 名の属性については、35 歳未満が 53.6%を占めた。大阪府の居住者が 63.8%、兵庫県が 11.6%であった。生涯初の検査経験割合は 21.7%であった。過去 1 年の検査経験がなかったものは全体のうち 66.7%であった。MSM 対象の予防啓発やコミュニティセンターのことをあまり知らなかった人は 30.4%を占めた。

MASH 大阪のもつ SNS やセンタースタッフのアカウントから本検査の宣伝動画、メッセージを定期的に配信した。新型コロナ感染症の再拡大が起き、緊急事態宣言が出されていたため、紙資材を用いたゲイバー等への情報の積極的なアウトリーチは実施できなかった。

表 1 郵送検査利用者の概要

	地域	大阪
	CBO	mash大阪
	コミュニティセンター	dista
a 配布数		142
b 受検者アンケート回答者数		103
c 利用者数；郵送検査会社での受付数		87
利用率；配布数に占める利用者数(c/a)		61.3%
d 結果確認者数；結果画面のログイン記録 (割合 d/c)	84	(96.6%)
抗体検査結果 *重複感染 (1名)		
<input type="checkbox"/> HIV感染症		
e 判定不能者数 (割合 e/c)		1 (1.1%)
f 陽性数 (割合 f/c)		2 (2.3%)
推定 新規陽性者数 (新規陽性率) *		2.5 (2.9%)
<input type="checkbox"/> 梅毒		
g 判定不能者数 (割合 g/c)		1 (1.1%)
h 陽性数 (割合 h/c)		14 (16.3%)
推定 新規陽性者数 (新規陽性率) *		6.4 (7.4%)
i 追跡可能者数；無料ID使用者数 (割合 i/c)		69 (79.3%)
j 追跡可能者実数；無料ID使用者実数 (割合 j/c) **		68 (78.2%)

* 新規陽性者の推定は、j)追跡可能者実数における既往を除く陽性率をもとに新規陽性率を算出し、(利用者数-判定不能者数)に掛けて求めた。

** j)追跡可能者実数は、i)追跡可能者数から判定不能だった人を除いたもの。

*** すべての集計より再受検の重複は除いた。

3) 実施しての振り返り

一般 dista 来場者にキットを渡してももらうだけで、実際に使用するかどうかについてはわからない。

DM やメールの利用者を自発的に申し込んでくるため、最後まで案内ができる人が多かったように感じる。ただし、申込者の中には女性と思われる人 (Twitter の画像や発言など) に案内することもあった。トランスジェンダーなのかどうなのかの見極めはむづかしく、Twitter という空間での仕方なさを感じたが、アンケートに回答の際に察したのか、最後の案内まではつながらなかった。

dista でピタッとちえっくん (distaHIV 検査会) の際に、郵送監査キットの配布日だと勘違いして取りに来た人もいた。→配布期間をずらすなどしたほうが良いように思った。

外国人 (タイ) からの受検希望者がいた。

電話での対応は URL を伝えるむづかしさから結局、メールや DM のやり取りになったため、今後はメールでの対応はむづかしいと思った。

対面での相談の多くは、ウィンドウピリオドのことであった。メール、DM での相談の多くは受け取り場所に関することであった。

D. 考察

緊急事態宣言や自粛要請もあり、進行は困難を極めたが、センターが持つネットワークを駆使して、宣伝、配布数増に努めた。これまで MSM 向け啓発をあまり・全く知らなかったものが全体の 3 割を占めており、これまで届いていなかった層に本プログラムが届いた可能性もある。また HIV、梅毒の陽性件数から鑑みても、感染リスクの高い層に届いた可能性も示唆された。

今後、コミュニティ内で対面型アウトリーチができない中でどのように検査のニーズがある感染リスクそうにどのようにリーチするかが課題である。

E. 結論

新型コロナ感染症に伴う自粛宣言に対応しながらのゆうそう検査の進行には困難、課題があったが、今後クリニック検査やセンターで実施している検査提供プログラムと棲み分け法も考えつつ最適な検査提供モデルを検討していく必要がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Adam O. Hill, Takayuki Homma, Kohta Iwahashi,

Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa: Correlates of lifetime and past one-year HIV-testing experience among men who have sex with men in Japan, *AIDS Care*, 2020.

DOI: 10.1080/09540121.2020.1837339

- 2) 金子典代, 塩野徳史: コミュニティセンターに来場するゲイ・バイセクシュアル男性の HIV・エイズの最新情報の認知度と HIV 検査経験, コンドーム使用との関連. *日本エイズ学会誌*, 23(2), 2021.
- 3) 宮田りい, 塩野徳史, 金子典代: MSM (Men who have sex with men) に割り当てられるトランスジェンダーを対象とする HIV/AIDS 予防啓発に向けた一考察-ハッテン場利用経験のある女装者 2 名の事例から. *日本エイズ学会誌*, 23(1), 18-25, 2021.
- 4) 金子典代, 塩野徳史: MSM を対象にした当事者主体の HIV 検査の取り組みと意義. *日本エイズ学会誌*, 22(3), 136-146, 2020

2. 学会発表 (国外)

- 1) Anand Tarandeep, Nitpolprasert Chattiya, Shirasaka Takuma, Iwatani Yasumasa, Yokomaku Yoshiyuki, Imahashi Mayumi, Kaneko Noriyo, Iwahashi Kota, Ikushima Yuzuru, Aoki Rieko, Ishida Toshihiko, Shiono Satoshi, Yamaguchi Masazumi, Takemura Keizo, Iwamoto Aikichi: HIV Prevention among MSM in JAPAN: Current Opinions on Achieving the First 90 among Japanese MSM. The International Congress on Drug Therapy in HIV Infection (HIV Glasgow 2020), Glasgow, 2020.

3. 学会発表 (国内)

- 1) 井上洋士, 後藤大輔, 船石翔馬, 高橋良介, 塩野徳史, 金子典代: 成人前期 (20 歳代) MSM での性行動と HIV・性感染症認識に関する面接調査研究. 第 34 回日本エイズ学会学術集会・総会, WEB 開催, 2020

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表1 郵送検査キット利用別 基本属性および検査行動

	アンケート回答のみ n=34		検査利用 n=69		合計 n=103		Pearson カイ2乗	
年齢階級								
	24歳以下	3	8.8%	7	10.1%	10	9.7%	0.65
	25-34歳	11	32.4%	30	43.5%	41	39.8%	
	35-44歳	12	35.3%	21	30.4%	33	32.0%	
	45歳以上	8	23.5%	11	15.9%	19	18.4%	
国籍¹⁾								
	日本	34	100.0%	63	91.3%	97	94.2%	0.17
	海外	0	0.0%	6	8.7%	6	5.8%	
居住地								
	北海道	2	5.9%	0	0.0%	2	1.9%	0.45
	東京都	1	2.9%	5	7.2%	6	5.8%	
	神奈川県	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	
	岐阜県	1	2.9%	0	0.0%	1	1.0%	
	静岡県	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	
	愛知県	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	
	滋賀県	3	8.8%	3	4.3%	6	5.8%	
	京都府	2	5.9%	3	4.3%	5	4.9%	
	大阪府	20	58.8%	44	63.8%	64	62.1%	
	兵庫県	5	14.7%	8	11.6%	13	12.6%	
	奈良県	0	0.0%	2	2.9%	2	1.9%	
	岡山県	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	
性別²⁾								
	男性	33	97.1%	65	94.2%	98	95.1%	0.61
	女性	0	0.0%	2	2.9%	2	1.9%	
	トランスジェンダー	1	2.9%	2	2.9%	3	2.9%	
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
セクシュアリティ								
	ゲイ（男性同性愛者）	30	88.2%	56	81.2%	86	83.5%	0.58
	バイセクシュアル（両性愛者）	4	11.8%	12	17.4%	16	15.5%	
	ヘテロセクシュアル（異性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	決めたくない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	レズビアン（女性同性愛者）	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	その他	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	
居住形態								
	独居	22	64.7%	43	62.3%	65	63.1%	1.00
	同居	12	35.3%	26	37.7%	38	36.9%	
	定住先はない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
これまでのHIV検査（エイズ検査）経験								
	ある	26	76.5%	54	78.3%	80	77.7%	1.00
	ない（今回が初めての検査）	8	23.5%	15	21.7%	23	22.3%	
過去1年のHIV検査（エイズ検査）経験								
	ある	11	32.4%	23	33.3%	34	33.0%	1.00
	ない	23	67.6%	46	66.7%	69	67.0%	
過去1年の受検場所³⁾（複数回答）								
	保健所	2	5.9%	6	8.7%	8	7.8%	1.00
	病院/クリニック	6	17.6%	7	10.1%	13	12.6%	
	郵送検査	0	0.0%	5	7.2%	5	4.9%	
	その他	5	14.7%	8	11.6%	13	12.6%	
過去6か月間の利用施設（複数回答）								
	ゲイバー	11	32.4%	16	23.2%	27	26.2%	0.35
	ゲイイベント	3	8.8%	2	2.9%	5	4.9%	
	ゲイショップ	2	5.9%	3	4.3%	5	4.9%	
	有料のハッテン場	12	35.3%	12	17.4%	24	23.3%	
	野外のハッテン場	6	17.6%	8	11.6%	14	13.6%	
	いずれもない	14	41.2%	37	53.6%	51	49.5%	
							0.30	

1) 海外の内訳は、アジア；中国、台湾、ベトナム、インドネシア その他；不明。

2) トランスジェンダーの内訳は、MTF、FTM

3) 病院/クリニックは、病院、クリニック、診療所、医院など。その他には公的な検査機関、コミュニティセンターでの検査、イベントでの検査、海外の医療機関が含まれる。

表2 郵送検査キット利用別 性行動および予防行動

	アンケート回答のみ n=34		検査利用 n=69		合計 n=103		Pearson カイ2乗
男性同性愛者対象の予防啓発の取り組みやコミュニティセンターを知っていますか？							
よく/少し知っている	23	67.6%	48	69.6%	71	68.9%	1.00
全く/あまり知らない	11	32.4%	21	30.4%	32	31.1%	
過去6か月間に男性とセックスをしたことがありますか？							
ある	33	97.1%	63	91.3%	96	93.2%	0.42
ない	1	2.9%	6	8.7%	7	6.8%	
過去6か月間に、セックスをした相手は、以下のどれにあてはまりますか？（複数回答）							
彼氏や恋人	7	20.6%	16	23.2%	23	22.3%	1.00
友達やセクフレ	23	67.6%	44	63.8%	67	65.0%	0.83
その場限りの相手	20	58.8%	28	40.6%	48	46.6%	0.10
過去6か月間のインターネットやSNS、アプリを使って出会った人とのセックス経験							
ある	28	82.4%	50	72.5%	78	75.7%	0.33
ない	6	17.6%	19	27.5%	25	24.3%	
過去6か月間のハッテン場でのセックス経験							
ある	12	35.3%	11	15.9%	23	22.3%	0.04
ない	22	64.7%	58	84.1%	80	77.7%	
過去6か月間の複数人（3人以上）でのセックス経験							
ある	9	26.5%	10	14.5%	19	18.4%	0.18
ない	25	73.5%	59	85.5%	84	81.6%	
過去6か月間の相手にお金を払ったセックス経験							
ある	1	2.9%	1	1.4%	2	1.9%	1.00
ない	33	97.1%	68	98.6%	101	98.1%	
過去6か月間の相手からお金をもらったセックス経験							
ある	3	8.8%	2	2.9%	5	4.9%	0.33
ない	31	91.2%	67	97.1%	98	95.1%	
過去6か月間のセックス時のドラッグ（ラッシュ、ゴメオ、MDMA、大麻、覚せい剤、脱法ドラッグ）使用経験							
ある	1	2.9%	1	1.4%	2	1.9%	1.00
ない	33	97.1%	68	98.6%	101	98.1%	
過去6か月間のアナルセックス時のコンドーム使用							
非常用	27	79.4%	49	71.0%	76	73.8%	0.49
常用	6	17.6%	14	20.3%	20	19.4%	
過去6ヶ月間がない	1	2.9%	6	8.7%	7	6.8%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」認知							
知っている	22	64.7%	47	68.1%	69	67.0%	0.82
知らない	12	35.3%	22	31.9%	34	33.0%	
「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用意図							
服薬したくない/どちらかといえば	4	11.8%	11	15.9%	15	14.6%	0.84
服薬したい/どちらかといえば	18	52.9%	36	52.2%	54	52.4%	
知らない	12	35.3%	22	31.9%	34	33.0%	
過去6か月間の「HIV感染予防のためのセックス前の服薬（PrEP,プレップ）」使用経験							
ある	1	2.9%	6	8.7%	7	6.8%	0.42
ない	33	97.1%	63	91.3%	96	93.2%	
性感染症既往（複数回答）							
梅毒	3	8.8%	8	11.6%	11	10.7%	1.00
A型肝炎	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	1.00
B型肝炎	1	2.9%	7	10.1%	8	7.8%	0.27
C型肝炎	1	2.9%	1	1.4%	2	1.9%	1.00
クラミジア	6	17.6%	11	15.9%	17	16.5%	1.00
尖圭コンジローマ	3	8.8%	5	7.2%	8	7.8%	1.00
淋病	2	5.9%	6	8.7%	8	7.8%	1.00
HIV感染症	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	-
赤痢アメーバ	0	0.0%	1	1.4%	1	1.0%	1.00
毛じらみ	14	41.2%	17	24.6%	31	30.1%	0.11
性器ヘルペス	3	8.8%	0	0.0%	3	2.9%	0.03
その他	0	0.0%	2	2.9%	2	1.9%	1.00
いずれもない	14	41.2%	34	49.3%	48	46.6%	0.53

